

思いもよらない、新しい若い参加者たちがやってきた！

市民連合みやぎ 共同代表 多々良 哲



「2・8ショック」

りようげん

国会前で火が点き全国の路上に燎原の火のごとく広がった、「戦争反対！9条守れ」のペンライトデモ。そのきっかけが「2・8ショック」にあったことは間違いないりません。

2月の衆院総選挙で「立憲野党」は壊滅的惨敗を期し、単独でも改憲発議が可能な3分の2以上の議席を占める「戦後最大の自民党」が衆議院に出現しました。高市一強（独裁）体制のもと、歯止めなき大軍拡、自由と人権の抑圧、そして明文改憲（9条改悪）に突き進んでくることは間違いない。戦後最大の改憲の危機に直面して、「なんとかしなければ」という思いに駆られた多くの市民が、ペンライトを持って路上に出たのです。

さらに2月末には、なんとアメリカとイスラエルによるイランへの奇襲攻撃が行われ、しかも自衛隊がそこに「参戦」させられるかも知れない（9条が歯止めとなつ

てギリギリそれを防ぐ）という事態まで起こり、市民の「戦争反対！9条守れ」の声がますます高くなったのでした。

新しい若い参加者がペンライトを振る

このペンライトデモの著しい特徴は、新しい若い参加者が増え、しかも女性の参加が多いということです。私の住む仙台でも、3月以降、繁華街や駅前で、それ以前の10倍の200〜300人の参加者を集めて、ペンライトデモが毎週のように行われています。その中に参加し周囲を見渡せば、若い女性が増えていることは一目瞭然です。

彼女らの表現は創意工夫に富んでいて、自由奔放です。カラフルにデコったペンライトを振り、思い思いの手作りプラカードや架空団体の幟旗を掲げ、軽快なリズムに合わせたコールが参加者の一体感を生み出しま

◆特集 全国に広がる「ペンライトデモ」



仙台でのペンライトデモ

す。そして彼女らのスピーチは、受け売りでもお仕着せでもなく、生活実感から発した自分の思いを自分の言葉で表現していることが分かるので、深く胸を打ちます。

それぞれがDIYスタイルで参加していることが、デモデビューのハードルを下げ、参加者はますます多様多彩になっています。仙台では、中学2年生の男子が「もうすぐテストがあるんだけど、居ても立ってもいられず来ました」とスピーチして拍手喝さいを浴びました。一方で「私にも発言させてください」とマイクを握った

91歳の男性が、「私は仙台空襲を体験しました。戦争は地獄です。それを知らない議員たちが、若い人を戦争に行かせようとしている。そんなことはさせたくない！」とスピーチし、若い参加者たちの度肝を抜いたこともありました。

「広場の政治」を創出

私たちは長年、なぜ若者たちは運動に参加しないのか？ どうやって参加を促すか？ を思いあぐねてきましたが、思いもよらないツールを持って、思いもよらないカルチャーをまとうて、ついに新しい若い参加者たちがやってきました。彼ら彼女らは、自分の思いを自分の言葉で語り、その言葉への共感共鳴で参加者同士が繋がる（さらにSNSで瞬時に全国に広がる）「広場の政治」を創出しつつあります。

戦後の日本の市民運動・社会運動の系譜で見れば、このペンライトデモは「組織から個人へ」「イデオロギーから日常の地続きへ」という、ここ数十年来のベクトルの中に位置づけられ、その最もポップでパンクな到達点と言えるでしょう。

しかし本当のところ、それが何故いま突如始まったのか？ 何故、燎原の火のごとく広まったのか？ は正直わからない。「2・8ショック」だけでは説明がつかない。その「謎」に立ち会った私たちは「市民運動のダイナミズム」に恐れ入り、ただ感嘆しているしかないのだと思います。

（たたら さとし）